<table>
<tr><td colspan="6">会　　議　　録</td></tr>
<tr><td colspan="2">平成２７年度第４回
社会教育委員の会議</td><td>日
時</td><td>平成27年8月21日（金）
午前９時30分～11時30分</td><td>場
所</td><td>小金井市第二庁舎
８階８０１会議室</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="5">小金井市教育委員会生涯学習課</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出
席
者</td><td>委　員</td><td colspan="4">中村議長、原嶋副議長
古家、樋口、樹、本多、石田、倉持、小山田、清水　各委員</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="4">西田生涯学習部長</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="4">石原生涯学習課長、前島公民館長
小堀生涯学習係長、伊東生涯学習係主事</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴の可否</td><td colspan="2">◎可　・　一部不可　・　不可</td><td>傍聴者数</td><td>０人</td></tr>
<tr><td colspan="3">傍聴不可・一部不可の場合の理由</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

次　　第

1　協議事項

(1)　第３次小金井市生涯学習推進計画について

ア　キャッチフレーズについて

イ　進捗状況の確認について

(2)　科学の祭典について

2　報告事項

(1)　公民館（本館）の仮移転にかかる市民説明会の実施について

(2)　東センター事業運営委託の開始について

(3)　放課後子どもプラン運営委員会について

(4)　次回会議日程について

（中村議長）

おはようございます。

今回で我々社会教育委員の会議は最終回という予定ではあります。きょうはフルメンバーにおそろいいただきまして、ありがとうございます。

それでは、冒頭に事務局のほうから配付資料の御説明をお願いします。

（事務局）

それでは、配付資料の説明をさせていただきます。

クリップどめのものになりますが、１枚目が本日の次第になります。

２枚目がこの間の８月４日の小委員会検討後の施策の体系の確定版のものになります。

その次が基本理念・目標、第３章のものがＡ４の片面１枚刷りになっています。

その次がキャッチフレーズ案で、この間、案１と案２のものを作成させていただいたので、御確認ください。

最後がメールでも送らせていただいたと思いますが、この間の小委員会の議事録になっています。こちらは両面刷りになります。

あと、先ほど清水委員のほうから薪能のカラー刷りのチラシを配付させていただきました。

委員のお手元にスポーツのアンケートがあると思うのですが、そちらで配付資料は以上になります。

何か過不足等がありましたらおっしゃってください。

以上です。

（中村議長）

ありがとうございます。

まず、協議事項に入る前に、協議事項の中にあります第３次小金井市生涯学習推進計画についてということで、前回の小委員会で協議されて、まだ積み残したところが幾つかあることが１つ。その際に事務局のほうからもお話があったのですが、今回、この会議で本来的には終了という最後の会議になりますが、積み残した懸案等があるようでしたら、我々の期の９月上旬までの中で予算的にもう一回会議を行うことも可能だという御提案がありました。

まず冒頭に、きょうでどれぐらい進むかというところもありますけれども、配付資料の中のＡ４の「Ｈ２７年８月４日　小委員会検討後　施策の体系（確定）」をごらんいただきたいのです。

この中で真ん中の「施策の方向」の一部のところは欄が埋まっていますけれども、それ以外のところにおいて、例えば我々社会教育委員の会議の中で今後重点的に考えていかなければならない事項を議論として導き出して、ここに加えていってはどうかというお話が事務局のほうからありました。それがきょうの会議で全部終わればいいのですが、ただ、できない場合については、予算的なものがあるので、９月の上旬までにもう一回ぐらいはやっても可能だということですが、これについてもう一回、延長するや否やということで、皆さんの御意見をいただければと思います。まずそれを最初に決めなければ、きょうの会議をどう進めていくかというところと関連するところがありますので、御意見をいただければと思います。いきなりで恐縮なのですが、いかがでしょうか。

それに加えて、「含まれる事業の想定」について論議するのは、今回の我々の社会教

育委員の期においては不可能であると。もともと私もそこまでできるとは思っていなかったのですが、そこについては事務局にお任せするなり、次の期の委員に委ねさせていただくということだと思います。それまでの段階で固めるというところで、「施策の体系」は決まりなのですが、あと、施策の方向性を我々の期の中で重点的に考える中で、きょうの会議だけでそれが終了してよいかどうかというところなのですけれども、いかがでしょうか。御意見をいただければと思います。

樹委員、いかがですか。

（樹委員）

今の御提案なので、全部方向性が決められるかというと、ちょっと不安なものはありますし、一度もんだものをもう一度見返すような時間ももしかしたら必要なのかもしれないと思うので、可能であればもう一度会議をやってもいいかなと思います。

（中村議長）

今、樹委員のほうからは、最終的に整理する意味合いでもう一度やってはいかがかというお話がございました。

（倉持委員）

残っている懸案事項の確認なのですけれども、「施策の方向」は埋めなくてはいけないものなのですか。何となく今、入っているところは「体系」から細かく分かれたところが入っていて、それ以外は基本的にはくくりが１つずつになっているので、何を入れるのだろうと。

（中村議長）

実はそこなのですけれども、先ほど事務局と我々正副議長で打ち合わせをした際にそこが話題になったのですが、全部埋める必要はないのではないかということです。ただ、先ほど申しましたように、我々の期の中で重点的に取り組んでいかないといけないところについては欄を埋めていく必要がある。全部埋める必要はないのではないか。重点的に取り組まなければならないところについてはこの方向性の中で欄を埋めていくという話になります。

（石原生涯学習課長）

議長と私の認識が違っているのかもしれませんが、重点的事項を方向性に入れるということでは、必ずしも私はこだわっていなくて、こういった事業、余り施策を細かくつくられても困るのですけれども、このようなイメージの事業とか、こういうことを実現するための事業を重点にすべきだみたいなものをいただければ、それは１から４のどこの部分の重点事項であるというようなところの御意見いただければ、おのずとそういうところから枝分かれして、出ていくものはつくっていく道筋になるのかなというイメージで私は申し上げているので、必ずしも施策の方向性の中に重点方向というもので入れていただかなくてはいけないとまでは私のほうは考えておりません。

（中村議長）
　重点的に考えなければならないところが決まりますね。その後の作業として、決まったところはどこに落とし込まれていくか。
（石原生涯学習課長）
　そこは基本的に１、２、３、４のどれを体現するものかというところまで御提言いただければ、それにあわせてつくっていこうかなと思っています。
（中村議長）
　つくるというのは、どこをつくっていくのか。
（石原生涯学習課長）
　それにあわせて、それをつなぐ体系であるとか、事業の想定であるとか。
（中村議長）
　意味がわからないのですが。今、この会議の中で重点的に取り組まなければいけないところが決まるとしますね。それはどこに文言上、反映されていって、書面上どう展開されていくか。
（石原生涯学習課長）
　重点的というところが、前に倉持委員が重点プロジェクトみたいなものを出されてはという御提言があったかなと思っていて、重点プロジェクトにするような事業の理念としてこういう理念だというような御意見をいただければ、それにあわせて想定される施策とかも余りこちらのほうで表にかっちりした事業として予算立てとかが決まるわけではないので細かくは出せないのですけれども、こういう充実させるべきだというものから想定されるような事業というものを我々のほうで考えて、それにあわせて「施策の体系」のほうに吸い上げていくというイメージで私はいるのですが。
（中村議長）
　今の御説明でおわかりいただけましたか。
（倉持委員）
　方向のところを埋める、埋めないの議論とはまた別で、体系としては網羅的につくるけれども、生涯推進計画の中でより重点を置くべき課題だとか、こういうサポートがあったらいいのではないかとかということを少し議論して、その論点を幾つか浮き立たせておいて、それをこの中に改めて位置づけようとする。
（石原生涯学習課長）
　そうですね。その論点というのは必ずしもきっちりとはまるものではないと思うのです。例えば１つの事業でも、環境づくりでもあるし、人づくりでもあるしというようなところも出てくると思うので、そこはこういう理念みたいなものをぜひ実現してほしいという御意見をいただければ、９月９日以降の進め方への示唆になるのかなと思って、私はそういう意味で、何とか事業というものはこういうことを実現できるよ

うに進めてもらいたいとか、そういうような御意見を今期の委員からいただければいいのではないかと思っています。

（倉持委員）

確かに生涯推進計画は網羅的にさまざまなところに目配りをしてつくるという、枠組みをつくることを今、求められている。どちらかというと、今までそこに重点を置いて今期はやってきたと思うのですけれども、今の御提案は、それに加えて、少し力を入れたり、ここをもっと今後検討していったらいいのではないかとか、小金井市がもうちょっとここに力を入れていったほうがいいのではないかみたいなところを出していって、次の期に引き継いでいったらいいのではないかというお話なのではないかと思うのです。

こういう計画を立てたときに、例えば今つくっている施策の体系なり、方向の中で、この中で特にここという重点の置き方をしているものもあるのです。例えば生涯学習センター構想がありましたね。例えばあれがこれで言うと４－５のところを網羅的につくったのだけれども、特に４－５と２－２というように、このあたりに、最初はここに力を入れて検討するようにと分量を多く置いたり、少し多目に書いたりするようなやり方もあると思うのです。それとは別に、今、議長がおっしゃったように、少し網羅的にはなるけれども、例えば郷土を愛する心を育むような事業に重点を置くとなると、リーダーの育成も大事だし、学習機会の提供も大事だし、連携も大事だしみたいな感じで、体系にはまたがるのだけれども、そういう重点的な市民がより身近に感じるような課題設定をするみたいなやり方と、今、私が思いついたのは二通りぐらいあるのですけれども、その議論をやるのであれば、多分、きょう求められている全体的な枠組みを決めることプラスのところだと思いますので、最初の議長の提案によりますと、小委員会をやるかやらないかといったら、きょうどこまでどれを決めなければいけないかということの中で、埋めなくてもいいのだったら、とりあえずキャッチフレーズを決めればいいということなのかもしれないので、そうすると、重点に関することをみんなで意見を言って、そこで終われるかもしれないし、もうちょっときちんと重点を次の期に引き継げるように幾つかに絞っていこうというのであれば、もう少しきょうの議論を引き取って、各委員で考えてきて集まる機会が必要かなと。結局、私の意見としてはそういうことになると思います。

（中村議長）

ありがとうございます。うまくまとめてくれました。議題の中の協議事項（１）できょう決めなければならないところは、積み残しのところでキャッチフレーズです。これはこの前の小委員会で大体の方向性は出たのです。あと、これまでの進捗状況の確認という中で、この一覧表のところでもいいのかどうか。その確認の２つの作業がある。ですから、もう一回やるやらないについては、きょうできるだけやれるところ

までやって、最後に考えてみようと思います。それでよろしいですか。

１　協議事項

(1)　第３次小金井市生涯学習推進計画について

ア　キャッチフレーズについて

（中村議長）

では、皆さんに御理解いただけたようでしたら、協議事項（１）から入っていきます。第３次小金井市生涯学習推進計画について、キャッチフレーズについて、進捗状況の確認についての中で、最初にキャッチフレーズについてです。これについて皆さんのお手元の資料の中に「キャッチフレーズ案」ということで、案１、案２ということでありまして、案１については、これはお二方の委員の合作というか、結びつけたものです。「みんな　あたたかく　つなぐ　小金井　世代越え　学んで広がる　地域の絆」。こちらでどうか。言葉はほぼ固まったのです。ただ、前回、約半分の方が御欠席でありましたので、半分の委員で決めるのもいかがなものかということで、素案ということです。案２については事務局からの御提案で、前と後ろを入れかえた。「世代越え　学んで広がる　地域の絆　みんな　あたたかく　つなぐ　小金井」の２つでどちらかに決めようかと思うのです。ただ、これ以外にもっといいお考えがあるようであれば、それはやぶさかではありませんので、その辺も含めて御意見をいただければと思います。

いかがでしょうか。

（原嶋副議長）

休むということは大体委任したということなので、前回休んだので、この方向なのかなという気がしています。御案内のように、キャッチフレーズというのはどなたが見ても、生涯学習は基本的にこういうことを目指す、シンボライズされているものになっていく。この議論の中では、やはりわかりやすく、親しみやすく、短くということだったのかなと思っています。

伺いたいのは、「みんな　あたたかく」というのは願望でよろしいですか。あたたかい小金井をつくる。それでいいのですね。

案１、案２とすれば、座り心地というか、感性しかないのですね。最後に「小金井」と置いたほうが、いいのかなという気がします。

（中村議長）

ありがとうございます。

では、古家委員、いかがですか。

（古家委員）

私も４日にいなくて、原嶋先生と同じように一任したつもりではいたのですけれども、今、こうやって１と２とどちらがいいですかと聞かれたら、よくわからないのですが、感覚的には、どちらかというと、最後に「小金井」が来たほうがみたいな気持ちはします。でも、こだわりません。

（中村議長）

樋口委員、どうぞ。

（樋口委員）

私も「小金井」というのは入っていたほうがいいと思うのです。ただ、上と下を比べたときに、小金井以外のところから来た私などは、「みんな　あたたかく」というのはすごく大まかなイメージでわかるのですが、小金井は個人で学んだり、そういうものがとても熱心なところだなというイメージがあったのです。世代を超えて学んで、地域の絆をというのは、小金井らしさの部分でもあるかなとは思うのです。地方のほうへ行くと、あたたかくとか、地方らしさが出ている感じなので、これがミックスできたらいいなと。済みません、余計混乱させる意見を言ってしまいました。

（中村議長）

代案として何かありますか。

（樋口委員）

最後のところに「小金井」を入れるのをちょっと今、考えます。

（中村議長）

では、清水委員、いかがですか。

（清水委員）

前回休んでしまって申しわけないのですが、実は皆さんの案を見ていて、キャッチフレーズがどういう場面で使われるのか。一つは、当然この資料の中に入ってくるのですが、資料と離れてどこかに出たときに、何のキャッチフレーズなのかというものがわからないのも困るかなという気がして、皆さんの案を見ながら、どこかに生涯学習という言葉は入れておいたほうがいいのかなと実は気になっていました。

ここにも「世代越え　学んで」というので、何となく生涯学習ということを意識しているのがわかるのですけれども、小金井というのはむしろ前提みたいな、なくてもいいと私は考えておりまして、「つなぐ　生涯学習」とかと置きかえてもらったらいかがでしょうか。キャッチフレーズがどこで使われるかが想定できないという話で、生涯学習の資料と切り離されたときにこのキャッチフレーズが何のキャッチフレーズなのかということをある程度明確にしておいたほうがいろいろなところに使えるかなという気がしました。「小金井」というのはあえて入れなくてもいいのかなということで、むしろ「生涯学習」に入れかえてみたらどうかというのが私の意見です。

（中村議長）

ありがとうございます。

石原課長、今、清水委員から、キャッチフレーズはどういう場面で使われるのかという御質問がありましたが、どうですか。

（石原生涯学習課長）

確かに清水委員が言われるようにいろいろな場面で使わなければならないというところはあるので、そういう意味では清水委員がおっしゃるような形、どのような場面で使ってもわかるというのが理想ではあるのですけれども、現実的には、社会教育とかそういった世界、そういった関係の催しの中で使えるに限られてしまうのかなというのが現状です。いろいろな場面で使えるのは、小金井市の基本構想「みどりが萌える・子どもが育つ・きずなを結ぶ　小金井市」みたいなものは市内の掲示板などに、これは基本構想のキャッチフレーズだとは書かずに出されるのですけれども、各計画類のキャッチフレーズがそこまでの市民権を得るところまではなかなか行っていないのが現実かと思います。

（中村議長）

古家委員、どうぞ。

（古家委員）

多分、このキャッチフレーズが何もほかになくて、キャッチフレーズだけがひとり歩きしてぽんと出ることは、私は１００％ないと思うのです。仮に例えばこういう何かのチラシみたいな部分でキャッチフレーズがあったとしても、どこどこに小金井市生涯学習云々とか、必ずどこかにあると思うので、結びつくのは間違いないと思います。キャッチフレーズだけがひとり歩きすることは多分ないだろうと思うのです。

（中村議長）

倉持委員、いかがですか。

（倉持委員）

私も欠席していますが、せっかくなので意見を言うと、最初に見たときには少し長いかなと思いました。単語が並んでいるという感じがして、もう少し削っても意味が通じるところがあるかなというのを思うところです。例えば「絆」と「つなぐ」は、２回言うことによってあえて強調するということはあると思うのですが、意味が重なっているなとか、「世代越え」と「みんな」というのも言いかえているのかなとかという、上の段と下の段を言いかえているということでいうと、繰り返してもいいのかなとは思うのですが。

あと、下で見ると生涯学習の計画というよりは「絆」が主語になるというか、学びはちょっと弱くなるかなと。地域の絆であたたかくつないでしまうので、生涯学習の計画なのかなという気は。今の清水委員の意見を聞きながら思ったりもしました。

私は個人的には、あたたかいだろうから「みんな」と「あたたかく」をとっても、

あるいは「つなぐ」と「絆」はどちらかでもいいのかなとは思うのですけれども、でも、語呂としては、リズムはすごく、「世代越え　学んで広がる　地域の絆」と何となくおさまりはいいので、余りいじってしまうと全体のバランスが悪くなってしまうのかなというようにも思ったりします。

あと、樋口委員の意見を聞いて思ったのですけれども、「絆」というものを、これは好みと、小金井市がふだんどう使っているかにもよるのですけれども、「絆」というのを余り好まない方もいらっしゃる。やはりつないでしまうことになるので、「絆」はもともとの意味は鎖的な意味があるので、震災以降、広い意味で使われるようにはなっているのですが、それぞれの団体が自発的に自由にやっていることなのに、きずなっちゃっていいのかというところは、もしかすると、自発的、自立的にやっている団体さんの幾つかは感じるかもしれない。そうすると、あえて「絆」ということによってつながっていくことを強調するのか、あるいは小金井市でやっている自発的、自由にやっていることもサポートするということのほうに強調するのかによって、それこそどちらのカラーを置くかによって変わってくる。今は「絆」と「つなぐ」が両方あるので、何となく「絆」がよりぎゅっとさせているような印象を感じさせるのですけれども、「絆」を残すなら「つなぐ」をとってもいいかなとか、これは人によって感じ方が違うと思うのですけれども、それは思いました。

（中村議長）

ありがとうございます。

議論百出というところで、一つは「生涯学習」を入れればいいのではないかという御意見。「小金井」はとってもいいのではないか。「絆」と「つなぐ」は同義語、ほぼ同じ意味とみなしてどちらかを削る。「みんな　あたたかく」を削る。あるいはちょっと長過ぎるから短くする。いろいろな意見が出ましたけれども、前回、出席していただいた委員の方から御意見はありませんか。

小山田委員、いかがですか。

（小山田委員）

今、皆様の御意見を伺っていて、さてどうしたものだろうかというところで、ただいま考え中というところです。

確かに長いというか、同じような意味のことが含まれてはいるので、もう少しそこのあたりは、同じことであれば一つの言葉で済ませられたほうがいいのかなと今、考えているところです。

（中村議長）

ありがとうございます。

石田委員、いかがですか。

（石田委員）

私が「つなぐ」としたことは「絆」の中で３・１１がより皆さんの頭の中に印象づけられているということは拭えないと思うのです。それであえて「絆」を使わなかったのですが、今、「生涯学習」という意見が出て、ああそうかと思ったのですけれども、「世代越え　学んで広がる　生涯学習の輪」とか、ここにも「生涯学習」を入れられるのかなと思ったのです。「世代」と「地域」でも、ここに「生涯学習」が「地域の絆」のところに入ってくると、生涯学習の行動とかが全部含まれてくるかなと今、聞いていて思いました。

（中村議長）

今までの御意見を集約していただくような御提案でしたけれども、短くという趣旨にも合致しているのではないかと思うのです。「世代越え　学んで広がる　生涯学習の輪」で終わりという御意見。短くていいかもしれません。

（石田委員）

第２次は「共に教え合い、学び合い、共に育つ」で、「共に」「共に」と一緒にということを強調しているのです。だから、この長さからいくと、今のキャッチフレーズも長くないかなという気がするのです。結構こっちのほうが長いかなという気がするのです。

（中村議長）

短いほうがいい。

（倉持委員）

しかも、前期は「共に」とか、「学び合い」とか、協働することをすごく強調していますね。それを全く今回はなくしていいのか。継承しなくていいのか。

（清水委員）

先ほど古家先生からもお話があったのですけれども、キャッチフレーズはせっかくつくったから、やはりそれをもとに訴える、ＰＲする１つの素材と考えていったほうがいいと思うのです。そういう意味では、多少とも小金井市から資金的援助を受けている活動には全てこのキャッチフレーズを入れろというぐらいの指導をして、それが一つの生涯学習の成果としてみんなに見えるようにしていく。例えばここにあるものも実は助成金を市からいただいています。助成するかわりにこのキャッチフレーズをどこかに入れろという指導をしてしまうのも１つの手。体協さんなどでもね。そういう形でそういうものは市の中でそれなりの目的性と具体性を持ってやっているのだというＰＲの素材にする手もあるかなと思うので、１つのキャッチフレーズを生かすことも考えたほうがいいのではないか。現状は余り生かされていない。特定の人しか目につかないところに埋もれている気がします。

（中村議長）

ありがとうございます。

本多委員、いかがですか。
（本多委員）
皆様のご意見を伺っていましたが、私の提出した３つのキャッチフレーズは一つ一つの言葉は心に残り語呂がよくて、リズムが良いという事で良かったのかと思うが、今、迷ってしまい意見が出なくなったという感じです。
（中村議長）
ありがとうございます。
樹委員、いかがですか。
（樹委員）
当初、キャッチフレーズは短くて、親しみやすい言葉で、できたら覚えられるようなものをというようなところが一番最初のスタートの時点であったと思います。この案に関しては、確かに語呂がいいというか、リズムがいいかなと前回思いながら、ただ、やはり石田委員と本多委員のつくったものを合体させたので、やはり言葉の重なりとか、イメージが同じものが２つ続くというような感じになっているのは確かに否めないなと思うのですが、今、御提案の例えば「世代越え　学んで広がる　生涯学習」と言われて、一個一個を考えていくと、全部の言葉が結局同じことを指している感じがして、またそれもちょっと違うかなというか。学んで広げていくということもイコール生涯学習でもあるし、私たちがつくってきた３次の計画の目指してきたものは何なのかというのを、どこまで象徴できるかをもう一回ここで考えないとだめかなと思って、今、何か案があるわけではないのですが、ほかの市とかを見ながら、安易に決めたら、この後５年間ずっとこれみたいなそういう感じになるので、誰が決めたのと言われたときに、この期の名前が最後に入っているみたいな状況にもなりますので、慎重にこれと言わないとだめだなと思いながら、ちょっと言葉を考えている状況です。
（中村議長）
ありがとうございます。
一通り皆さんの御意見を承りました。ことしの５月に倉持委員のほうからメモということで、キャッチフレーズの基本的な考え方について整理していただいた条項を読み上げますと、わかりやすく、親しみやすい。具体的で長くない。一番最後が大事だと思うのですが、計画の内容とマッチするというところ。この３点に絞って整理していただいています。ですから、計画をよく踏まえた上で、その内容にマッチしたキャッチフレーズをつくっていかなければならない。その中でこれまで論議があったと思います。キャッチフレーズのキーワードとして、人にかかわることは例えば世代、人、子ども、私、世代間、人材。場にかかわることは、地域、家庭、学校、地域の連携、まちづくり、コミュニティー、地域で育てるまち。かかわりに関することは、交流、連携、協働、創造、継承、ネットワーク、つなぐ、つなぎ合う、結ぶ。学びと活動に

かかわることは体験学習、社会参加、生かす、学び合い、育成。時間にかかわることは未来。表現では、合うは、何とか合い。学び合う、分かち合う、つなぎ合う等。そういうキーワードを幾つか挙げていただきました。その辺を踏まえて論議しなければならないということ。これはこれまでに論議したことのまとめではありますが。

その中で、キーワードを踏まえた中で私が個人的に思いますのは、継承と発展というところだと思うのです。これまでの生涯学習に関する論議を踏まえて、それを継承しつつ、それを発展させるというところも大事ではないか。時間的なところですね。時間にかかわることであれば、未来を視野に入れたことも大事ではないかということもアイデアの整理の中で出てきています。

（本多委員）

提出した中で、３番目の「輝く未来は　学びの継承」を本当は押していた気持ちがあったのですが、その後が出なかったのです。そこで「つなぐ心」を入れてしまったのです。

（中村議長）

本多委員のあれですね。

（本多委員）

そうです。「学びの継承」というのは深い言葉だったなと思ったのです。老いた人が若い人に教える。学校の先生が、母親が子どもにと、そういう意味では「学びの継承」が良いと思ったのが、この３番目の中の言葉なのです。

（中村議長）

「継承」という言葉はいい言葉ですから、それをやわらかくするなりして、昔から綿々と続いているところを踏まえて、それを未来に展開させるというところが大事ではないか。発展というところですね。

本多委員、もう一回言っていただいていいですか。

（本多委員）

「輝く未来は　学びの継承　つなぐ心」。「つなぐ心」のところがもう少し言葉がないかなというところで提出してしまったのです。でも、最初に選ばれたほうが多分語呂がいいから皆さんが選んだと思います。

（原嶋副議長）

議長さんに聞きたいのですけれども、この案がせっかく出てきて、私も「絆」とか「つなぐ」は同じなので、これはまずいかなと思うのだけれども、案２をとりあえず踏み台にして、新たな展開をしてもいいということを前提に話し合いを進めていくのかということを確認していただきたいと思います。これがあって話し合われて、ただ、幾つかの修正があってでき上がるのかなと思っていたのですけれども、いきなり皆さんからぼんぼん出てくると、流れは一体何なのか。決め事は何かとなると、休んだ者

としては、今回は黙っていようと思ったのですが。
（中村議長）
　私が最初に申しましたように、この前は半分の委員の出席でしかありませんでしたので、全体合意を形成するには難があるということで、出席委員の中だけで決めて案が出てきたわけですけれども、ただ、それは決定事項ではありませんから、今の会議で論議する内容をもとに、もう一回考えてもいいことだと思います。それに当たっては、これまで皆さんからいただいたキャッチフレーズの案で出てきたものがあります。その中と、我々がこの前の小委員会で決めたこの方向でいかがかという方向性は一応出たのですけれども、それは決定ではない。
（古家委員）
　もう一回確認していいですか。
　私は、今、原嶋先生と同じように思っていたので、前回欠席していたから一任しているつもりなので、案１と案２が出てきたので、ここで案１か案２かどちらかで決定するのだろうなということできょうここに来たのです。だから、余計なことを言うつもりは全くないというのがすごくあるのです。
（中村議長）
　別にこの前のところは決定事項でも何でもない。半数の委員しか出ていない。
（古家委員）
　そうなると、すごく極端に言うと、これを白紙に戻して話し合いをしていいのですかという部分、多分、原嶋先生もそう思っていらっしゃる。
（中村議長）
　それでもいいと思います。こういうものは簡単に決めるものでもないと思うのです。
（古家委員）
　そうだとすると、私は、この文章とか言葉がないところで抽象的にみんなが自分の意見を言ったら絶対に収拾がつかなくなると思うのです。だから、絶対に大事だと思うのは、案として出てくるような言葉なり、文章なりみたいなものが再度というか、今、間に合うならそこでそういうものが出てきて、少なくとも選択する、選ぶという方法がないと絶対にきょうの会議は、半年前の会議がもう一回行われているのと同じになってしまうだろうなと思う。
　もう一つ決めるためにすごく重要なことが、先ほど倉持委員のほうから出された３つのポイントがあったではないですか。短くて云々とか、そういうものがあって、本当にそれに基づいてやろうとするのだったら、その原則は守らなければいけないと思うのです。なぜかというと、覚えやすいものを考えるならば、絶対短いものですね。それこそ五七五ぐらいのものでないと、短くてわかりやすいものにはならない。ただし、その難点は抽象的になるということです。少しでも具体的なことを入れようと思

ったら長くなるのは当然のことなので、そうすると語呂はちょっと悪くなる。どちらを選ぶかという部分を方向性として決めた上で、そのルールに基づいてやらなければいけないのだろうなと。その辺の基本的な部分、キャッチフレーズとして短くて覚えやすいものにするのか、少々具体的なことが入ってもいいから長くするのかという方向性だけは決めたい。

もう一つ、案１、案２でなくてもいいという議論であるならば、具体的なものが何かペーパーとして言葉がないと、抽象論に終わってしまう。

（中村議長）

ペーパーについては前回か前々回に配られています。

（古家委員）

私も一回見た記憶があります。今ここにはないのですか。

（中村議長）

今、以前にお配りしたものをもう一回コピーして持ってきてもらいます。それを見ながら決めてしまいたい。

（古家委員）

覚えやすいように短く、抽象的でもいいから短くするという方向なのか、少々具体的に長くてもいいからという方向は大事かなと思います。

（石田委員）

２期で使ったこのくらいの長さはあっていいのではないかと思うのです。さっき清水委員がおっしゃった生涯学習からいろいろなものを受けている団体は、何かするときにキャッチフレーズとしてこれを使うように強制したのも一つの方法だと思うのです。科学の祭典をするためにチラシを使って、科学の祭典というものを使うためには、科学技術庁から出た、必ずしもことしのテーマのポスターをどこかに入れなければいけないのです。それと、科学技術庁のところにつながっているいろいろな学会とかがずらずらと３０ぐらいあるのですが、それもどこかに必ず入れなければいけない。どんなに文字が小さくてもです。そこまで３０個も入れなさいというのは多いなと思いながら私は打っているのですけれども、そういうものはやはり生涯学習の方向性としてキャッチフレーズを広げようと思うのだったら、そういう方向性。チラシのどこかに生涯学習から例えば名義使用の許可をもらうような団体には、名義使用のところに生涯学習のキャッチフレーズをどこかに入れてくださいねというような指示、方向性は今までになかったものだと思います。

（中村議長）

今、石田委員がおっしゃった御意見は清水委員の御提案ですね。

（石田委員）

それを聞いて、私は現実に科学の祭典でやっているので。

（中村議長）
　そういう縛りを設けて普及させるということは大事ですね。ありがとうございます。
（清水委員）
　今の件についてもう少し言うと、実は生涯学習からの援助ということでなくていいと思うのです。例えば薪能はコミュニティ文化課を経由してきたりしているのですね。ただし、施策の中身を見るといろいろな企画政策から何とかといろいろ、要は小金井市全般の事業が生涯学習とどうつながるかというまとめをしているわけで、そういう意味では、別にあえて生涯学習とこだわらず、生涯学習にかかわりそうな事業にはという、広い意味で小金井市から助成を受けた場合にはキャッチフレーズをつけなさいという指導を、体協の中にもそういう。そういう使い方をするときは、余り長いよりは、短くて、なるべく、これは１つの共通テーマだとぱっとわかればいいなという気がします。
（中村議長）
　ありがとうございます。
　ちょっと戻りますけれども、皆さんお手元の資料、今、配られたキャッチフレーズ案をもう一度お目通しいただいて、基本的な考え方をもう一度だけくどいようですが申し上げます。わかりやすく、親しみやすい。具体的で長くない。計画の内容とマッチする。この基本的な考え方を外さないようにして、もう一度、キャッチフレーズ案をお目通しいただいて、御意見をいただきたい。
　これは前回の小委員会で配られているものですね。
（倉持委員）
　きょう、前回の第４回小委員会の資料が私のところにはあるのですけれども、皆さんのところには。私は欠席だからついているのですね。前回小委員会がお休みだった人にはついているのですか。
（事務局）
　議事要録は全員についています。
（倉持委員）
　違います。クリップどめになっている。
（事務局）
　それは欠席された委員に置いてあります。
（倉持委員）
　前回欠席した人しか今、手元に持っていないのかもしれないですけれども、他市のキャッチフレーズの一覧をつけていただいているのですが、短さで言うと、どれぐらいの短さを目指すのか。これは横並びで見るとすごくわかりやすいのですけれども、多分、この中で一番特徴的で、私たちもよく引き合いに出す府中市さんは「『学び返し』

を通した地域教育力の向上」。これはかなり短いほうだと思うし、キーワード「学び返し」というのがはっきりついている。福生市さんも「希望に満ちた明るいひとづくり」とか、青梅市さんの「ともに　学んで　生きる　まち」とかなり短いです。あとは大体、武蔵野市さんは「ともに学び、つなぎあうひと・まち・文化」も短いと思います。それくらいの長さです。

（原嶋副議長）

反面教師として、西東京市みたいなものはきつくなってくる。

（倉持委員）

これは長過ぎる。きつくなってくる。「“だれもが主役”で輝く循環型の地域学習社会の創造をめざして」。「の」が多い。「西東京市における参画と協働による生涯学習社会の実現」。これは長い。ここはやらない。二段にはならない。三鷹市も長いのですね。「ともに学び、学びを活かし、心豊かな社会をつくる」「学びの成果や絆を地域に受け継いでいくために」。結局、副題みたいなサブテーマみたいなものをつくると長くなるのですね。

（石田委員）

町田市なども。

（倉持委員）

町田市はキャッチフレーズではないでしょう。

（中村議長）

町田市は「市民が生涯にわたって、いつでもどこでも自由に学び続け、支え合うことができる社会を目指します」と。

（古家委員）

意図的にこういう表現にしたのでしょうね。

（倉持委員）

こうやって見ると、余り片仮名は使わないのですね。平仮名か漢字なのですね。

（古家委員）

きょう、案１、案２として出てきているものというのは、正直なところ、ちょっと長いかなという気はするのですけれども、長くてもいいという感じにするのならば、それこそここにあるような多摩市とか西東京市みたいに長いものを覚悟の上で、メインテーマとサブテーマと２つに分けるやり方は一般的に使われるやり方だと思うのです。そうすると、メインテーマはやや抽象的だけれども、サブテーマに具体性が入っているというやり方を一般的にやると思うのです。そうしないで続けると長いという人間の感覚があるのだと思うのです。だから、具体性を入れようとするとサブテーマも入れる。そうしないで、短くと思ったら、メインテーマだけで、せいぜい五七五に近いぐらいの文字数にするという方向性なのだと思うのです。

（倉持委員）
そう考えてみると、府中市はよくできている。
（中村議長）
府中市は「『学び返し』を通した地域教育力の向上」ということ。
（倉持委員）
絞っている。メッセージ性をかなり。
（石田委員）
具体的なものですね。
（倉持委員）
網羅的にしてしまうと、どうしても抽象的にはなりますね。
（小山田委員）
キャッチフレーズをつくるところの先ほどのポイントで、もう一つ、計画の内容とマッチするものというものもあると思うので、先ほどもいろいろ出ていましたが、計画の今期の重点課題としてどこを持っていくのかということもあるのかとは思うのです。それでキーワードではないのですが、そのあたりを挙げて、短目にみたいなことはどうかとは思いましたが、いかがでしょうか。
（石田委員）
さっき古家委員が言ったメインがあって、サブがあるというのは意外といいかなと思いまして、「学びの継承」ということをメーンに持ってきて、そして「世代越え　あたたかく　つなぐ　小金井」とやって全部網羅する。「学びの継承」で全部が入ってくると思います。それがメンテーマで。
（中村議長）
もう一回具体的に。
（石田委員）
例えばメインで「学びの継承」と入れていきますね。そして、そのサブとして「世代越え　みんな　あたたかく　つなぐ　小金井」。
（中村議長）
では、メインテーマが「学びの継承」で、サブが「世代越え　みんな　あたたかくつなぐ　小金井」。
（石田委員）
これは「小金井」ではなくて「生涯学習」でもいいと思うのですが。
（倉持委員）
私は、今、２つの方向性を考えていて、１つは、世代を超えるとか、継承するという言葉がキーワードになっているところなのですが、これまでの議論だと、次にもつないでいくとか、発展するとさっきちょっとおっしゃいましたけれども、未来をつく

る。継承と発展あるいは継承と創造みたいなことで言うと、今の石田委員の御提案は、継承とか受け継ぐということと、未来をつくるとか、創造するとか、本多委員のかけ橋も好きなのですが、どうしてもうまく言葉がつながらないので、未来へのかけ橋とかがいいのか。未来をつくるとか、未来へのかけ橋、未来を創造するとか、その言葉と継承をセットにすると据わりもいいし、ただつないでいるだけだとちょっと重いというか、新しいものがない感じがするので、継承するということと、新しくつくり出すということで何かまとめられるといいかなと。

小山田委員がおっしゃった今の計画とマッチするものということでいうと、環境づくり、人づくり、まちづくり、ネットワークづくりというのが入ってくるのがあるので、環境づくりは基本的に土壌づくりなので、大して要らないと思うのですけれども、人とかまち、ネットワークという言葉をつくるということを入れる。今言った、最初の話と後半の話は別の案なので、両方入れるとまた長くなるので、どちらかかなという方向で、マッチすることを重点に置くなら、さっき言った人とかまち、ネットワークということを入れるという案ですし、継承と創造ということを重視するのだったら、石田委員の提案に本多委員の提案を、継承と創造、発展、創造という言葉で未来ということを入れるという二通りの御提案です。

（中村議長）

ありがとうございます。

時間軸で考えれば、例えば継承とか発展、未来とか、そのあたり。あと、横につなぐというかかわりに関するところでネットワークとか、つなぐ、結ぶとか、その辺を加味しながら考えてはどうかというところでしょうか。

（原嶋副議長）

小山田さんがおっしゃったのは、簡単に言えば、柱が４つありますね。この柱を上手に生かしながらキャッチフレーズ化していく。継承と創造はちょっと違う軸なのかなということを指摘したかったのかなという気がします。

（倉持委員）

どちらかなのだと思うのです。確かに継承、創造は直接なこの体系とはマッチしなくはなるのですけれども、逆に言えば、この４つの体系の土台にあるのが継承と創造なのだみたいな捉え方として、直接言葉ではつながないというやり方もあるかな。なので、人づくりをしたり、まちづくりをしたり、ネットワークづくりをするかというと、学びを継承し、未来をつくるからなのですよみたいな大きな目的みたいな言い方で網羅することもできるし、いやいや、せっかく４つの柱があるのだから、柱をあらわすような言葉でという、より直接的につなげるようなどちらかの方向性かなと思っています。

（石田委員）

４つの体系の柱の中に学びを全部にわざと学びを使っておりますね。だから、今回のメインテーマを学びということに位置づけてもいいのではないでしょうか。
（中村議長）
そうですね。例えば学びの継承というところですね。
（石田委員）
ということは、この継承によってこういう４つが出てくるよということにつながりがないでしょうか。持ってくることは厳しいのでしょうか。体系の中に環境と人とまちとネットワークがあるわけですね。ですから、それはキャッチフレーズの中に入れなくても大丈夫なのではないかという気がしました。
（中村議長）
小堀係長、御意見ありますか。ちょっと違う視点からいかがですか。方向性でも。
（小堀生涯学習係長）
倉持委員がおっしゃった１番目の継承、創造、未来をつなぐかけ橋とか、そういったものは、やはり計画をつくっている中では、私も文章をつくっているときに、過去であったり、未来であったりという、つながっていくというところは頭にあって、これからという意味で、言葉としてすごくいいなと思いましたので、個人的にはそういったものを使ったキャッチフレーズも心に響くかなと感じたのですが。
（倉持委員）
さっき言った提案で二通りつくってみました。まず、前段の継承とか、創造のほうです。さっきの石田委員の意見も踏まえて「学びの継承　学びの創造」か「学びの継承　未来の創造」。並べるというパターンです。何々しみたいにつなげない。「学びの継承　何々の創造」かもうちょっとやわらかく、「学びを受け継ぎ　未来をつくる」とか、前のは言葉だけで並べている。きれいな単語、名詞でつなげているのですが。
（中村議長）
「学びを受け継ぎ　未来を」。
（倉持委員）
「学びを受け継ぎ　未来をつくる」とか「学びをつくる」というパターンをつくりました。
（石田委員）
「未来をつくる」の「つくる」は「創造」の「造」のほうですね。
（倉持委員）
「創造」の「造」で考えていました。もう一つの後半の柱を生かしたバージョンは、つまらないのですけれども、「学びを通した　人・まち・ネットワークづくり」みたいな羅列バージョン。武蔵野市みたいな「人・まち・文化」みたいな感じを。
（中村議長）

「学びを通した」をもう一回。
（倉持委員）
「学びを通した　人・まち・ネットワークづくり」。「づくり」は全部にかかっているという捉え方で「人づくり」「まちづくり」「ネットワークづくり」にかかっていて、「学びを通した　人・まち・ネットワークづくり」。これが柱を生かしたバージョン。どちらも副題としてはつけられるので「あたたく」を入れる余地は残しました。
（石田委員）
最後の「人・まち・ネットワーク」の「まち」は普通の「街」ですか。
（倉持委員）
「まち」は平仮名です。柱が平仮名なので、平仮名生かしです。「人」は漢字です。それも柱が漢字なので。
（中村議長）
うまくまとめていただきました。
（倉持委員）
想像力がないのでつぎはぎしただけで失礼しました。
（石田委員）
３番が一番いいような気がします。
（中村議長）
「学びを通した　人・まち・ネットワークづくり」。
（倉持委員）
それか、さっき言った「継承・創造」のほうを生かしたものですね。
（中村議長）
１番が「学びの継承　学びの創造」。
（清水委員）
主題、副題でくっつけてしまってもいいですね。
（倉持委員）
「継承」とか「創造」があるほうが、余りほかの市にはないのと、短いというところで、オリジナリティーあふれるというメリットがあるのです。相当短いので。やはり「創造」「継承」「未来」という言葉をインパクト重視で入れている。さっきの狙いで言うと、短いという方針にはそうことだと思います。ただ、計画とマッチしているという方向でいくと、後半の「学びを通した　人・まち・ネットワークづくり」のほうが計画とマッチしている。３つの方針のどこで採点されるかによって。
（本多委員）
今、言われた「学びの継承・未来の創造～人・まち・ネットワークづくり～」と。
（倉持委員）

つなげてしまうということですか。
（本多委員）
２つをつなげてしまう。
（中村議長）
１番と３番をくっつけて、例えば主題と副題にするという方法もありですか。
（本多委員）
そうすると、思いが全部入ります。多摩市のように言葉と言葉の間に「～」を。
（倉持委員）
「『笑顔をつむぐ　生涯学習』～」。確かにこれも個性的ですね。
（原嶋副議長）
個性派を、下の「あい」「あい」とかおもしろいね。
（倉持委員）
稲城市も相当個性的ですね。「Ｉらしさの発見、Ｉのまち“いなぎ”」、「Inagi」の「Ｉ」をかけているんだ。
（倉持委員）
これは本当に個性的。個性のトップワンは稲城と「学び返し」。
（樹委員）
僭越なのですけれども、先生の案の最後の「学びを通した　人・まち・ネットワークづくり」を例えば「学びでつなぐ　人・まち・ネットワーク」とか、「つなぐ」「絆」というのが今まで出てきたので、先ほど皆さんが言われていたように「学びの継承・未来の創造」というメーンテーマがあって、その下に「学びでつなぐ　人・まち」に「ネットワーク」という１つのつなぎの部分があるので、ちょっと重なるかなと思うのですけれども、例えば「人・まち・心」とか、そう変えていくと、私たちがずっと検討してきたことがみんな入っていくのかなと思いました。
（中村議長）
例えばメーンテーマで「学びの継承・未来の創造」として、サブタイトルで「学びでつなぐ　人・まち・心」という感じですか。
（清水委員）
「心」より「交流」というような「ネットワーク」と。先ほど片仮名を余り出さないというのもあるけれども、「交流」という。「心」というと何を言っているのか。あえて施策の中のネットワークづくりをやるとしたら、「交流」みたいな言葉を「ネットワーク」に変えたほうがいいでしょう。
（倉持委員）
確かに３番目が武蔵野市は「ひと・まち・文化」、小平市は「ひと・まち・未来」だから、３つ目にカラーが出てくる。何を３つ目に持ってくるか。

（石田委員）
　小金井らしさで文化ということが話題になったことがありますね。
（倉持委員）
　「人・まち・文化」というと、武蔵野市のをパクったのではないかと。「世代」もずっと出ていましたし、「交流」もずっと出ていましたね。「心」も人と人のという、内面的な部分。「つなぐ」もずっと出てきたわけだから確かに「つなぐ」でもいいかもしれないですね。
（中村議長）
　最後に「小金井」を入れてしまいますか。
（倉持委員）
　「人・まち・小金井」。それもおさまりますね。今回の案もきちんと生かしている。「学びでつなぐ　人・まち・小金井」。「まち」とかぶっているけれども、強調しているわけですからね。
（樹委員）
　原嶋副議長の案をちょっと。
（倉持委員）
　きちんと小金井の案だというところをアピールできる。
（中村議長）
　なるほど。「人・まち・小金井」でどうですか。
（石田委員）
　おさまりますね。
（中村議長）
　案ですけれども、メーンテーマで「学びの継承・未来の創造」。副題で「学びでつなぐ　人・まち・小金井」でいかがですか。
（石田委員）
　合いますね。
（中村議長）
　よろしいですか。これに決めて、何か異論がある方。
　では、決定でよろしいですか。では、もう一度申します。「学びの継承・未来の創造」「学びでつなぐ　人・まち・小金井」。皆さんの意見がいろいろ入っているもので、しかも、基本的な考え方を踏まえていると認識しています。
（古家委員）
　メーンテーマとサブテーマという形の表記ということになるのですね。
（中村議長）
　そういうことですね。最初に「学びの継承・未来の創造」と来て、その次の行で「学

びでつなぐ　人・まち・小金井」。いいんじゃないですか。縦軸と横軸になっていますね。計画の内容とマッチしています。具体的で長くない。わかりやすく親しみやすい。いいのではないでしょうか。よろしいですか。

（「はい」と声あり）

（中村議長）

ありがとうございました。

イ　進捗状況の確認について

（中村議長）

続いて、「イ　進捗状況の確認について」ですが、お手元の資料「小委員会検討後　施策の体系（確定）」をもう一度お目通しいただいて、最終的にこれでよろしいかどうか。

（古家委員）

そこで一つ確認をさせていただいていいですか。

私も４月からなのでいまだによくわかっていない部分があるのですけれども、最終目標はこれと同じような第３次の生涯学習推進計画をつくる。その原案というか、完全にこれをつくるのを今年度いっぱい。時期的には１２月ぐらいまでということなのでしょうか。それまでにつくらなければいけないのですね。

（中村議長）

そうですね。パブリックコメントとかもありますから。

（古家委員）

そう考えたときに、先ほどからずっと話題になっている今の期が９月上中旬で終わりという感じではないですか。そのときに、仮に次の皆さんが、多分、私は完全に残ると思うのですが、その皆さんが例えば９月末か１０月にスタートしたときにどの部分から２カ月間、３カ月間でこれがほぼでき上がるぐらいまでに持っていけばいいのかということの確認なのです。そのためにこのメンバーで、この第３次計画のどのぐらいまでつくり上げればオーケーなのか。もちろんここに書いてある全部の細かい文章までは別なのですけれども、それがこの部分とか、それからきょうの計画の基本目標とか、この前配られていた何枚かとじてあったものとか、その辺まででよしとして、その次の部分、もっと詳しく、多分、事務局のほうでこれに基づいて原稿みたいなものをつくっていただいたものを１０月スタートぐらいの次の皆さんでやるという感じでいいのでしょうか。ちょっと確認です。

（中村議長）

それについては事務局のほうからお答えを。私からお答えしたほうがいいですか。

では、石原課長から。

（石原生涯学習課長）

パブリックコメントをやるときにはほぼこれと同じぐらいまでできていなければいけなくて、現在、柱のところまではできたので、１４ページの核になるところから見ていただくと、第１節と第２節の計画の基本目標までは今、できているのかなと思っています。第２節の計画の基本目標を受けて、第４章、１７の「施策の展開」のところをこれからつくっていかなければいけないという段階かなと思っていて、これが少し入っているところもあるけれども、入っていないところもあるということで、大分、混沌とした中かなと思っています。ただ、次の期の方々は、今までどうだったかという理解から始まるところもあるので、そこは事務局のほうで１７ページ以降のところのイメージがつかめるようなものを提示して、次の期の方々にお見せして、１２月のパブリックコメントのときに今まで皆さん方に提案していただいたキャッチフレーズや基本目標とあわせてパブリックコメントをやっていくようなイメージかなと思っています。

（古家委員）

ということは、多分、９月末から１０月の初めに始まる次の期の方は、１７ページ以降のものを早い段階で事務局から提示していただくではないですか。それについて説明は受けるかもしれないけれども、ここはこう変えたほうがいいですよなどということは多分あり得ないと思うのです。なれている方、ここにいらっしゃる方で継続される方は別として。そうなると、１６ページまでの部分が確実に固まればいいということですね。

（中村議長）

そういうことです。ですから、今、１６ページまでの施策の概要、施策の体系と方向性までは決まりました。Ａ４のこの紙の中で含まれる事業の想定のところから。ですから、例えば老人クラブ助成事業であったり、多様な働き方と、具体的に実施している事項を事業仕分けではないですけれども、事務局のほうから挙げていただいて、それがどこに入るか。あるいはこの事業は生涯学習推進計画には合わないから記載しなくていいのではないかという、いわゆる政治であった事業仕分けみたいな感じで、施策の体系、施策の方法に基づいてこの事業はどこに入れる、あるいは入れない。ここには盛り込まないとか、その辺も具体的に論議していただくことになるのではないかというところです。

（古家委員）

次の期でですか。

（中村議長）

次の期です。私の意図していたところでは「施策の体系」「施策の方向」まではきょうの会議で終わる。具体的に例えば国際交流事業であったり、市民農園であったり、いろいろありますね。そういった細かな事業の仕分け。

（古家委員）
　この前、Ａ３判で３枚ぐらいあったものを、もう少し具体的に項目があったものの取捨選択というか、整理から始まるということですね。
（中村議長）
　そうですね。次の期で事業仕分けをいただく。そういう理解ですけれども、よろしいですか。
（石原生涯学習課長）
　今後、出すときにもう少しめり張りのというような御意見もあったかなと思っているので、出すべき事業は絞って、体系とか方向性により具体的にわかるようなものを強く出して、それ以外のほかの課、市長部局のほうでやっていて、これも生涯学習の一部なのだという点の事業については資料編など、そういった中でこういった事業も生涯学習の一部ですというような形で紹介していくようなイメージかなと考えております。
（中村議長）
　振り返ってみますと、第２次小金井市生涯学習推進計画で本当にこれが生涯学習の中身かなという具体例を申します。水道何でも相談あるいは浄水場の見学とか、そういったところまで果たして生涯学習の範疇に入るのかどうかというところまで前の計画に入っているわけですね。ですから、その辺は十分、事務局のほうで取捨選択した中で社会教育委員の会議の中で具体例を御提示いただいて、この中で議論していただく形。
（清水委員）
　今の件でよろしいですか。
　以前も議論があった前回の基本計画で出ている小金井市地域教育会議というものを創設という提言があって、それがどうなったかよくわからないという話の中で、前回の社会教育委員からの申し送り事項として学習支援センター機能の整備という具体的なテーマが出てきて、この施策の中にも入っている。私は今回で終わるつもりなのですが、これに対してこの委員会としてはどう考えるのですかというものはまとめなくていいのですか。素通りしてしまって、９月以降の委員の方々に。実際、みんな課題と思っていながら議論していないのではないかという気がしているのです。提言というので、前回は非常に目立つ格好でやっていながら、結果としてはどうなっているかよくわからないという実態の中で、また同じことを繰り返すのですか。
（原嶋副議長）
　清水委員がおっしゃっているのは、具現化できそうもないものは表現するものではないということだと思うのですけれども、今、おっしゃっている部分は、もっと大もとの生涯学習センターの機能の整備は、たしか市のもっと統括的なところでは出てい

ませんか。
（石原生涯学習課長）
　出ていません。あくまでも社会教育委員の提言という形での受けとめ方です。ですから、変な話なのですけれども、市の中でこれをきちんと整理していかないとこれから先の議論は進まないことになります。
（西田生涯学習部長）
　ただ、生涯学習センター機能については、今、検討している後期の基本計画。これから５年間の計画の中には何らか記載はして、５年たった中で今よりも検討が進んでいるという形を見せられる形で位置づけていきたいと我々のほうは考えております。ですので、その段階を経ないと先にここで議論されても進んでいかないという状況です。ですから、我々が提言を受けた段階で受け取っていますので、我々の検討課題になっているのです。ですから、今度の計画に載せるときにもさらなる推進をという感じになっていくのだろうと思います。具体的な議論をしても載せられないかなと。
（清水委員）
　ということで、テーマではあるけれども、施策に載ってしまっている。それに対してこの委員会はどう考えるのですかというのは、きょうで会議がなくなれば、今期の委員会としての話は一切、テーマだけは挙げましたということになってしまうのですね。
　ただ、テーマとして挙げましたというのは、前回の社会教育委員からの申し送り事項として考えてくださいねというお話で、我々から積極的に出したテーマではないのだと。そこがちょっと気になる。
（中村議長）
　前期のこの会議の議長の本川議長のほうから、第３次において、いわゆる生涯学習センター機能の計画を盛り込んでくださいねという引き継ぎ、申し送りを受けているのです。その論議はもうされているわけですので、あとは行政のほうで西田部長がおっしゃったようにどうお考えになるか、受けとめになるか。その辺があってというところがあると思います。ですから、計画の中に盛り込んでくださいよということで、そういう意味では、継承を具体的な形で盛り込みましたということです。
（石原生涯学習課長）
　地域教育会議について以前、清水委員が発言されたときに宿題になっていたと思うので、それ返事はまだしていないと思っているのですけれども、議会の会議録とかを調べてみると、議員さんからつくるべきだという意見があったりしているのですけれども、それに対して市のほうで明確にこういうものを考えていますというようなところは余り読み取れるようなものはなかった。何でそこが具体的に進んでいかなかったのかなというところで、類似した、ここに出ているものはかなり大がかりな、きちん

としたネットワークなのかなと思っているのですけれども、我々自身、今、やっているネットワークとして、例えば放課後子ども教室であっても、民生委員さんがいたり、子ども会に関する方がいたり、教育に関する方がいたりという形で協議会をつくってやっている。子どもの健全育成についても児童の安全のために同じような構成員でいろいろな分野から集まって協議会などができている。また、ここで御意見があったコミュニティスクールなどをやるときであれば、学校に対して地域支援本部みたいなもの、地域にかかわるいろいろな人たちが集まって学校を運営していこうというような仕組みもある中で、それぞれ小さなパーツとして幾つかある中で、またさらにそれを統合するような大きな組織というところまで必要性が余り感じられていないというところもあるのかなと。あと、新しい制度として総合教育会議ということで、市長と教育委員会が話し合う場なども設けられている中で、今後、教育ネットワークみたいなものが出てくるとすれば、総合教育会議などでも、市長と教育委員会だけではなくて、もっといろいろな中で話し合っていこうということが煮詰まってきたら、そういった大きな組織が出てくるのであろうと思っているのですけれども、現在まだ市長と教育委員会という核ができた段階だと思います。

（中村議長）

よろしいですか。

（清水委員）

いいというか、そういうことかなと。今回提案する提言がセンター機能の整備と。どういう形のものか実は私も認識していないので、どういう形で提案したものか。それについて素通りしてしまったなという感じは持っているので。

（西田生涯学習部長）

基本的には、提言をいただいているので、計画的には、これは差し出がましい言い方になるのですけれども、実現に向けて行政として努力するようにというような感じで計画をつくって、着実に実行してくださいというようなことになるのだと思います。ですから、議論はもう終わっていますので、ここでまたもう一回もむとは多分ならないと思います。一旦出てしまっているものですので。

（清水委員）

そうですか。前回の委員会の中で提言として出ているという認識で。

（西田生涯学習部長）

正式に受け取っていますので。ただ、それが進んでいないので、やってくださいというのはあるかと思います。

（清水委員）

わかりました。

（倉持委員）

「体系（確定)」の確認をというお話でしたけれども、「３．学びを活かしたまちづくり」と次のページの３章のところは「学びをサポートするまちづくり」で、どちらが正しいのですか。
（中村議長）
「サポート」に変えたのではなかったですか。
（石田委員）
７月１７日は「サポート」となっていて、８月４日では「活かした」になっています。
（倉持委員）
わざと戻したのですか。ただの間違いですか。
（石田委員）
「活かした」に戻ったのではなかったでしょうか。
（本多委員）
「サポート」という言葉は障がい者をサポートするようなイメージが強いという事で。
（倉持委員）
では「学びを活かした」に戻したのだ。では、第３章の文章になっているほうが間違っているのですね。表のほうが正しいという理解でいいのですか。何度かこれはどちらにしようかという議論を何回かやりとりして、私は前回休んでしまっているから。では、改めて「学びを活かした」のほうがいいだろうということになったのですね。
（石田委員）
たしか「サポート」という言葉について外しましたね。
（小山田委員）
第３回の会議録にありますね。「『サポートするまちづくり』という表現に違和感がある」。
（倉持委員）
議論した記憶はあるのだけれども、結論がどうだったかがちょっと。
（石原生涯学習課長）
「サポート」を生かしたまま前回の小委員会もそのまま通過させてしまったので、それは「活かした」ということで。
（倉持委員）
「学びを活かした」のほうが最終。
「４．学び合いの」の４－４の「市外との」は、前回の小委員会でも「市外との」を入れる入れないという議論があったようですけれども、これは結局「市外との」というのが残るということなのですか。「広域連携の」というように「市外との」をとっ

てもいいのではないかという議論があった。
（中村議長）
　それは事務局のほうで検討して御回答をいただけるという形です。
（倉持委員）
　今回出てきたものは入ったままですけれども、これはどうなっているのですか。
（小堀生涯学習係長）
　「広域連携」という言葉で調べたのですけれども、それだけで「市外との」という意味を分けるまでの言葉にはならないという判断をして、「市外との」という言葉は残しました。
（倉持委員）
　ありがとうございます。
（中村議長）
　では、確認です。こちらは「サポート」ではなく「活かした」に変更ですね。
　倉持委員、よろしいですか。
（倉持委員）
　はい。
（中村議長）
　「施策の体系（確定）」のレジュメについて、ほかに御意見ございますか。
　では、「施策の体系（確定）」で御意見がなければ、皆さん御了解いただいたということでよろしいですか。

　(2)　科学の祭典について
（中村議長）
　では、次の議題に早速移ります。（２）科学の祭典についてになります。
　これについては、前回の小委員会において私のほうから御提案させていただいて、第３次生涯学習推進計画の骨子をパネル展示してはどうかと。
（事務局）
　本多委員に科学の祭典の資料をつくっていただいたので、こちらを回覧していただければと思います。
（中村議長）
　先ほど申しましたように、科学の祭典については、第３次生涯学習推進計画の骨子、案になりますけれども、これをパネル展示してはどうかという投げかけをさせていただいて、一応、事務局のほうとしても御了解いただいたということですね。
　前回欠席された委員の方、よろしいですか。パネル展示をいたします。この前は第２次のパネル展示をした。

それから、科学の実験コーナーについては去年同様の展示をしつつ、古家委員から御提案いただいた案を採用してはどうかということになります。ただ、古家委員の御提案については、費用面は恐らくカバーできるのではないかと思うのですが、食材がその時期に調達できるかどうか。

（古家委員）

余り気にしないでいただきたい。私は欠席するので、何も出さないのも申しわけないなと思って、科学に関係するかなと思っておもしろそうなものを出しただけなので、全然気にしないでください。

（中村議長）

実験費用については上限が１万円までという、その範囲内であれば費用は科学の祭典の事務局のほうで出していただける。あと、去年行った実験でもよいのではないかということです。

石田委員、御説明をお願いします。

（石田委員）

今、伊東さんに配っていただいているのですが、この中をあけていただきますと、ボタン電池とかいろいろ入っているのですが、これは光の三原色を実験で見るために、ダイオードが３つ入っています。この発光ダイオードが赤と緑と青の３色で、ここに紙テープでボタン電池をつけてありますので、たしか短いほうがマイナスだと思いました。１つだけマイナスをつけて、ちょっとボタンをはずしていただいて。短いほうをマイナスにつけると色が薄くなる。これをこのテープに張っていただく。そして、３色全部つけて、この中に入れますと、ふたをしたときに、今は青ですけれども、光の三原色の原理でこれが白になるのです。それを目で見ようと。ダイオードが目の前で見られる。

この間、科学の祭典の事務局でサイエンスライブショーをやりまして、これはつくってあるものが８０セット。これからつくるのが１００セットで、材料が全部残っているのです。先生に伺って、それをブースでやってもいいかということで許可をいただいたので、くるくる回るものと一緒にこれをつくったらどうかなという提案です。赤のダイオード。

こういうものは持って帰るときの絶縁用のテープなのです。そして、これは赤が強過ぎるので、赤のときにこうかぶせると赤が少し弱くなるよということなので、のりからボタン電池をはずしていただいて、短いほうをマイナスのところに入れていただく。

ですから、やってくる作業としては、このテープにボタン電池を張っておくこと。それは大分前にやっていても平気なのですが、張るのはしない。ボタン電池だけ張っておく。これはあってもなくてもいいのだと思うのですが、これは絶縁用なのです。

持って帰るときの。それぞれをやるとずっと通電してしまうので、この紙を張ると絶縁するよということなのです。この３色がついたものはこうやると光が、さっき青だったものが白い色になって、光の三原色の赤と青と緑の３色が出ると白い色になるよという、目で見る実験なのです。

これは１００ありますので、とりあえずいただいてあります。つくったものが８０あります。

ということで、あれと一緒にこれをやったらいかがかなという提案です。ソロプチミストではやる時間がないので、いかがでしょうかということなのですが。

（本多委員）

明かりがつくだけでイメージしやすいですね。

（石田委員）

これが発光ダイオードの色だよということだけで。

（本多委員）

発光ダイオードが見えるだけで、子どもはわくわくします。

（石田委員）

結構強い光なので、それだけでも夢があるかなと思うのですが、いかがなものか。

（本多委員）

お金は大丈夫なのですか。

（石田委員）

お金は科学の祭典のサイエンスライブショーの実験で先生にお支払いしているので、余ったものをもらうということで、これは金がかからないのです。先生からは、科学の祭典の社会教育委員の会議のブースでやってもいいですかということで了解はもらっています。

（本多委員）

ありがとうございます。

（石田委員）

無駄にするのも、返すのももったいないので、ちょっと提案です。

（本多委員）

大人気になりそうです。

（中村議長）

否定する要素は全くない。ありがとうございます。

（石田委員）

この前、先生から提案していただいたキャベツのはすごくいいのですが、１０月には赤キャベツが売っていないのです。６月、７月が最盛期で。

（古家委員）

この間のは全然考えなくて、たまたま思いつきだったのです。
（石田委員）
そこまでは考えなかったのです。
ただ、ボタン電池を買ってくださって、これをここに張る作業があるのですけれども、会場の中で１時間くらい前でも少しずつつくっていけば大丈夫なことなので、特に材料さえ私がそろえて持っていけば。大体残っているので。
（原嶋副議長）
こうやりますよというつくり方の大書きみたいなものは用意されたりするのですか。
（石田委員）
今はないので、誰かに覚えていただいて、ボランティアの人に。
書くより、ボランティアの人に覚えてもらって。たしか学生ボランティアを養成していますね。
（本多委員）
そうですね。中学生を。
（石田委員）
その子たちが喜んで、もう少し難しいものがあるのですけれども、それはとても。私が説明したのですけれども、ちょっと手が出せないので。
（本多委員）
このサイエンスショーでの資料などはあるのですか。
（石田委員）
資料は特にないのです。先生にもらえば、この資料をもらえるかもしれないのですが。
（本多委員）
これは名前は何と言うのですか。
（石田委員）
光の三原色。
（本多委員）
パソコンで開くと出てきますか。
（石田委員）
滝川先生のガリレオ工房のあれでやると出てくるかもしれません。
（石田委員）
光の三原色で、それを発光ダイオードで見てみようという。
（樹委員）
大書きのタイトルも必要ですね。あと、何を学んだかというものを子どもたちが見

られるといいかもしれないですね。
（石田委員）
　簡単な説明だったら私でもつくれるし、滝川先生からもらえると思うのですが、パネルのこういうものはできないかもしれない。配りものだけなら。
（樹委員）
　そんなに大きいのは要らないけれども、何を学んだのかということが。その瞬間はきっと明かりがついただけで、みんな興奮して帰ると思うのですけれども、小さいお子さんが多いので、何で赤と青と緑の明かりをつけたのかというのがわかるといいですね。
（石田委員）
　それはつくれると思います。
（倉持委員）
　発光ダイオードが３色あるというのがいいですね。まだノーベル賞をとってそんなにたっていないわけだし、これが青色ダイオードかと。
（石田委員）
　中村修二先生の講演会を企画したのですが、修二先生が日本に帰ってこられなくなって、延期なのです。特別な何か。三方とも合同の何かが急に１０月にできてしまって日本に帰れないということで講演会を中止ではなくて延期にしてくださいと言っているのですが。
（清水委員）
　まだ募集まではいっていなかったのですか。
（石田委員）
　ですから、できないのです。
（原嶋副議長）
　段取りはどこまで。１０月４日ですね。時間の帯で、どなたかが去年と同じようにお手伝いするとか、事前準備はどなたがおやりになるとか、そういうものはもうできているのですか。
（石田委員）
　私は特に。
（中村議長）
　用意ということですか。
（原嶋副議長）
　用意とか担当者とか。
（石田委員）
　昨年、１回来てやりましたね。

（原嶋副議長）
一日中いられない方もいらっしゃるかなというのもあるし。
（樹委員）
新しい会議はいつ発足なのですか。
（石原生涯学習課長）
１０月９日からが任期です。
（樹委員）
その間いないということですね。
（石田委員）
ですから、前期のこの会が引き継ぐという、必然的にやるしかないでしょうという話にはなりましたね。
（樹委員）
新しい期の方に役員として来ていただくことも無理だということですね。
（石原生涯学習課長）
９月９日以降でないと。
（石田委員）
ただ、こういう会がありますので、お時間がありましたら御来場くださいという案内は出せますね。
（石原生涯学習課長）
９月ですから、科学の祭典は１０月４日なので、社会教育委員としては新しい期の方は発足していただいています。
（樹委員）
ただ、会議はやっていないということですね。
（事務局）
会議は１０月１６日です。
（原嶋副議長）
とにかくここがメーンなのですよ。頑張りましょう。
（樹委員）
会議もやっていない、顔合わせもしていない方たちにこれの役員をやれというのは無理な話ですね。
（石田委員）
ちょっと無理ですね。
（原嶋副議長）
さっきの話に戻りますけれども、前日どうするとか。
（樹委員）

それは中村議長を中心にまた調整していただくしかないということですね。
（石田委員）
今、本多委員からここに昨年の残りをなぜか私が預かりました。
（中村議長）
では、とりあえず、石田委員から御提案いただいた発光ダイオードについては採用させていただいてやるということで。
実験はこの１つにしますか。それとも何かもう一つぐらい。
（石田委員）
去年のものが残っている。
（樹委員）
本多さんが去年やったものはやるのでしょう。
（石原生涯学習課長）
報告をしたいものがありますので、させていただいても。

２　報告事項

(1)　公民館（本館）の仮移転にかかる市民説明会の実施について
（中村議長）
では、お願いします。
（前島公民館長）
報告事項（１）ですが、福祉会館の閉館に伴う説明会を実施いたしましたので、簡単に報告します。
市として、福祉会館については仮移転の方針を示していました。公民館本館についても仮移転することとなります。また、７月に市として年度内で福祉会館については利用の停止を目指すことといたしました。これに伴い、本館及び公民館本館機能の仮移転を予定している本町分館で説明会を８月５日と８月９日に行いました。説明会の内容につきましては、きょうはお時間もありませんので、また機会を見て改めて御報告させていただきたいと考えています。

(2)　東センター事業運営委託の開始について
（前島公民館長）
続きまして、東センターについてです。
東センターの事業運営については、より多くの市民への良質なサービス拡大ということで、委託のほうを進めてまいりましたが、８月１日からＮＰＯ法人市民の図書館・公民館こがねいさんに委託いたしましたので、御報告いたします。

ＮＰＯ法人では、採用者について７月１３日から実地研修を含め、研修をしていただきました。８月１日の初日には、市からＮＰＯ法人さんのほうへ東センターの事業運営引き継ぎ式という形で市長から理事長へ引き継ぎ書の引き渡しをさせていただきました。８月１日からこれまで順調に運営していただいているところでございます。教育委員会といたしましても、ＮＰＯ法人を見守りながら、東センターの今後の運営に努めてさせていただきたいと思っております。

簡単ですが、以上です。

（中村議長）

ありがとうございました。

(3)　その他

（中村議長）

報告事項、その他はございますか。

（樹委員）

放課後子どもプラン運営委員会が８月１８日に開催されました。各小学校とも１学期の行事を無事に終えたという報告がコーディネーターの皆さんからありました。今、課題になっているのが緊急時の連絡体制ということで、土日に市の職員の方がいないので、そこに入ってきた不審者情報等が各学校に入っていかないという課題を今、検討している最中であります。

次回は１０月ということですが、私はこの社会教育委員の任期と終了とともに放課後子どもプランのほうも終了させていただきまして、また新しい方に引き継いでいきたいと思います。

以上です。

（中村議長）

ありがとうございました。

（石原生涯学習課長）

スポーツに関する意識調査ですけれども、市民の方を対象に９月上旬から２，０００名の方に無作為抽出で発送されますので、もし社会教育委員の方々のお手元に届きましたら御回答のほど、よろしくお願いいたします。

（石田委員）

これは参考資料としてでいいのですね。

（中村議長）

参考資料です。

（石田委員）

私たちにやれということではないのですね。

（中村議長）
　やっていただいても。
（西田生涯学習部長）
　試しに丸をつけていただいて、提出していただいても。
（中村議長）
　協議事項の３と４が積み残しです。あと、先ほどの第３次生涯学習推進計画の重点的に力を入れていただくところがまだ議論できていませんので、できれば次回、もう一回ぐらい。事務局のほうとしては大丈夫ですね。
（石原生涯学習課長）
　基本的にはあります。
（中村議長）
　次回をもう一回ぐらい設定してはどうかと思うのですが、いかがでしょうか。今回では消化不良ですね。
（「はい」と声あり）
（中村議長）
　皆さんに同意いただいたということで、日程的なものを詰めさせていただければと思います。８月はちょっとむりかなと思うので、９月の上旬で、なるべくみなさんが集まれる日で考えたいが、いかがでしょうか。事務局の方でだめな日はありますか。
（西田生涯学習部長）
　すみません、管理職は８月下旬から議会が始まってしまうので、係長以下の出席になってしまうかと思いますが、今日この場で決めるというとまた時間がかかってしまいますので、メールでみなさんの日程をうかがった上で、調整させていただくのはどうでしょうか。
（中村議長）
　場所はここ以外でも別に大丈夫でしょうか。
（石原生涯学習課長）
　そうですね。任期が９月８日までなので、８日までに開催しなければいけないですね。
（中村議長）
　ではこういうのはどうでしょうか。みなさんの都合の悪い日を事務局の方にメール送信していただいて、それ以外の日で設定するのはいかがでしょうか。
（西田生涯学習部長）
　事務局宛にどんどん送ってください。
（石田委員）
　出発日はいつからですか。９月８日までですよね。

（西田生涯学習部長）
　２４日から９月８日までということでいかがでしょうか。
（中村議長）
　できれば日曜日中までにメール送信してください。その上で次の会議の日程を決めるということで。

以上